

# 令和7年度全国愛玩動物飼養管理士の日の活動結果報告

## 1 全国愛玩動物飼養管理士の日の制定の経緯と目的

公益社団法人日本愛玩動物協会（以下、協会という）は、動物の愛護と適正な飼養管理並びにそれらの普及啓発等の幅広い業務を行っている。業務の一つとして、愛玩動物飼養管理士の受講受験、認定登録等を行っており、その資格取得者は日本全国で約24万人に上る。愛玩動物飼養管理士は愛玩動物の適正飼養の普及啓発等について、個人や地域の団体での活動等を行っており、また、企業や行政機関においてもその資格を日々の業務に活用するなど、色々な形態での活動が推進されてきている。

しかしながら、せっかくの活動も全国的・統一的に行われておらず、また、社会貢献活動をしたくても地理的・時間的な制約などから活動を休止している方々もいる。このようなことから、今般、10月4日が「世界動物の日」であることにちなみ、令和7年から毎年10月4日を「全国愛玩動物飼養管理士の日」の日として定め、毎年適切なテーマを設定して、全国の愛玩動物飼養管理士が力を合わせて、統一的な活動を実施することとした。このことにより、愛玩動物飼養管理士の意欲向上、動物愛護管理施策に役立つデータ作成等に資するものとする。

## 2 令和7年度の活動

令和7年度は、次の二つのテーマの調査を実施した。

### A. 犬のお散歩マナー調査（観察調査）

人と動物とが共生する社会を実現するためには、ペットを飼っている人も飼っていない人も、お互いのことを理解して、気持ちよく暮らせるようになることが大切であるため、犬のお散歩の際のマナーの遵守状況について、目視による観察調査を行った。

### B. 犬・猫の災害時対策調査（アンケート調査）

大地震や豪雨などの大災害に備え、災害から人とペットを守るため、飼い主の防災意識、避難用品の備蓄、避難の事前確認、同行・同伴避難の準備状況などについてのアンケート調査を行った。

## 3 実施期間

令和7年10月4日（土）から8日（水）まで

#### 4 調査実施者

愛玩動物飼養管理士

#### 5 調査項目及び報告方法

別紙1「犬のお散歩マナー調査票」及び別紙2「犬・猫の災害時対策調査票」により調査結果を調査用紙に記録し協会に郵送、FAX またはスマートフォン等からGoogle フォームに入力して調査結果を報告した。

#### 6 調査件数

4,724 件

(内訳)

報告方法	犬のお散歩マナー調査	犬・猫の災害時対策調査
調査票	2,068 件*	1,985 件
Google フォーム	293 件	378 件
小 計	2,361 件*	2,363 件
総 計	4,724 件	

※「犬のお散歩マナー調査」については、後述の定点調査 108 件を含む。

## A. 犬のお散歩マナー調査（観察調査）の結果及び考察

「犬のお散歩マナー調査」については、本報告では全国の愛玩動物飼養管理士の協力による調査（全国調査）に加えて、協会として都内の1地点に愛玩動物飼養管理士を配置して調査を実施した（定点調査）。

[全国調査]

- ・調査期間：令和7年10月4日(土)から8日(水)まで
- ・調査場所：日本全国の愛玩動物飼養管理士が調査を実施した任意の場所

[定点調査]

- ・調査日時：2025年10月5日(日) 4:00～21:00
- ・調査場所：東京都品川区 大崎駅南口 目黒川沿い近辺

定点調査の結果108件は、全国調査の結果2,361件に含まれるため、定点調査の図表のタイトルには（定点・再掲）と表記した。

各調査項目の集計・分析結果と考察は次のとおりである。

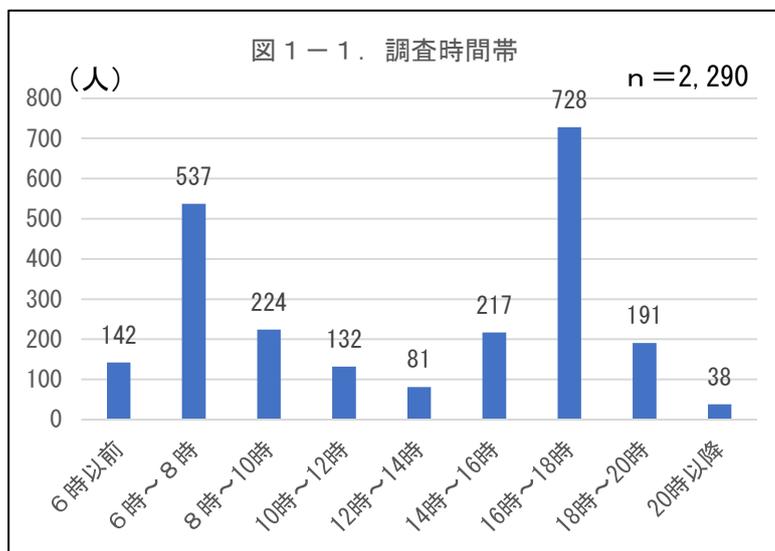
### 【調査項目1】観察調査をした時間

#### ① 全国調査

犬の散歩をしている人の観察調査をした時間帯について、有効回答2,290件のうち、最も多かったのは16時～18時（728件、31.8%）、次いで6時～8時（537件、23.4%）であり、これら2つの時間帯にピークが見られた（表1-1、図1-1）。

表1-1. 調査時間帯

時間帯	人数	割合
6時以前	142	6.2%
6時～8時	537	23.4%
8時～10時	224	9.8%
10時～12時	132	5.8%
12時～14時	81	3.5%
14時～16時	217	9.5%
16時～18時	728	31.8%
18時～20時	191	8.3%
20時以降	38	1.7%
計	2,290	100.0%



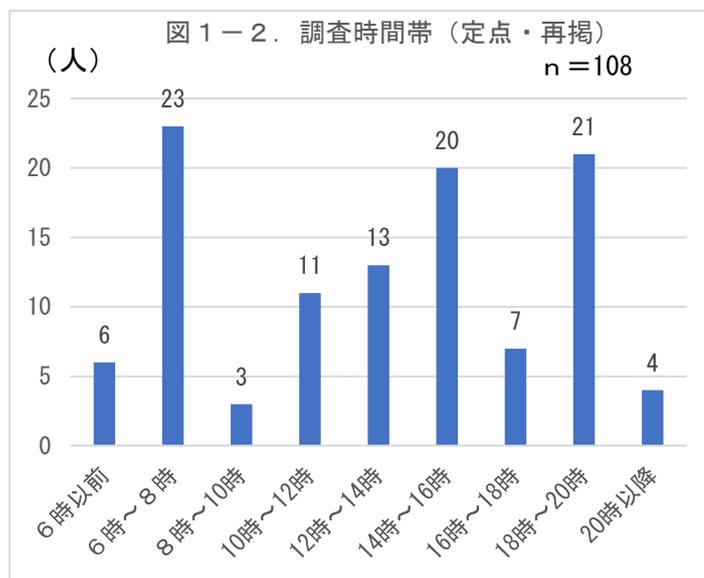
#### ② 定点調査

定点調査では、有効回答108件のうち、最も多かったのは6時～8時（23件、21.3%）、次いで18時～20時（21件、19.4%）の2つの時間帯にピークが見られた（表1-2、図1-2）。16時～18時の時間帯の件数が低いものの、昼過ぎから20

時までの時間帯は、早朝に比べて犬の散歩者が多いことがわかった。忙しい朝の時間帯よりも夕方の時間帯のほうが好まれている可能性がある。また全国調査でも夕方と早朝の時間帯にピークがあったことを考慮すると、犬の散歩仲間（犬ともだち）を作りたいときは、まずは夕方、次いで早朝の時間帯がねらい目と考えられる。

表 1-2. 調査時間帯（定点・再掲）

時間帯	人数	割合
6時以前	6	5.6%
6時～8時	23	21.3%
8時～10時	3	2.8%
10時～12時	11	10.2%
12時～14時	13	12.0%
14時～16時	20	18.5%
16時～18時	7	6.5%
18時～20時	21	19.4%
20時以降	4	3.7%
計	108	100.0%



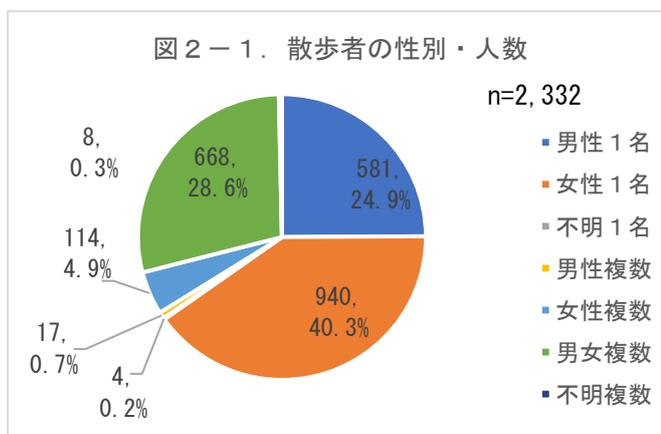
【調査項目 2】 散歩をしている人の性別 ※複数記入可

① 全国調査

犬の散歩をしている人の性別については、男性 1 名、女性 1 名、不明 1 名、男性複数、女性複数、男女複数に分類した。有効回答 2,332 件のうち、最も多かったのが女性 1 名で 940 件（40.3%）、次いで男女複数のグループで 668 件（28.6%）、その次が男性 1 名で 581 件（24.9%）であった。男性 1 名、女性 1 名、不明 1 名を合わせると 1,525 件（65.4%）、男性複数、女性複数、男女複数、不明複数を合わせると 807 件（34.6%）であった（表 2-1、図 2-1）。

表 2-1. 散歩者の性別・人数

性別	件数	割合
男性 1 名	581	24.9%
女性 1 名	940	40.3%
不明 1 名	4	0.2%
男性複数	17	0.7%
女性複数	114	4.9%
男女複数	668	28.6%
不明複数	8	0.3%
計	2,332	100.0%

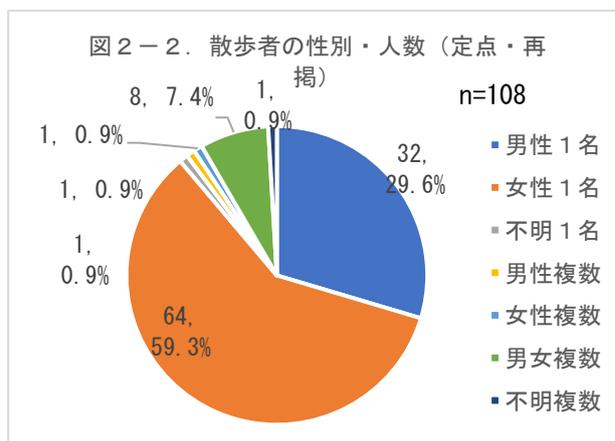


② 定点調査

有効回答 108 件のうち最も多かったのが女性 1 名で 64 件 (59.3%)、次いで男性 1 名で 32 件 (29.6%)、その次が男女複数のグループで 8 件 (7.4%) であった。男性 1 名、女性 1 名、不明 1 名を合わせると 97 件 (89.8%) となり、全国調査よりも多い傾向であった (表 2-2、図 2-2)。

表 2-2. 散歩者の性別・人数 (定点・再掲)

性別	件数	割合
男性 1 名	32	29.6%
女性 1 名	64	59.3%
不明 1 名	1	0.9%
男性複数	1	0.9%
女性複数	1	0.9%
男女複数	8	7.4%
不明複数	1	0.9%
計	108	100.0%



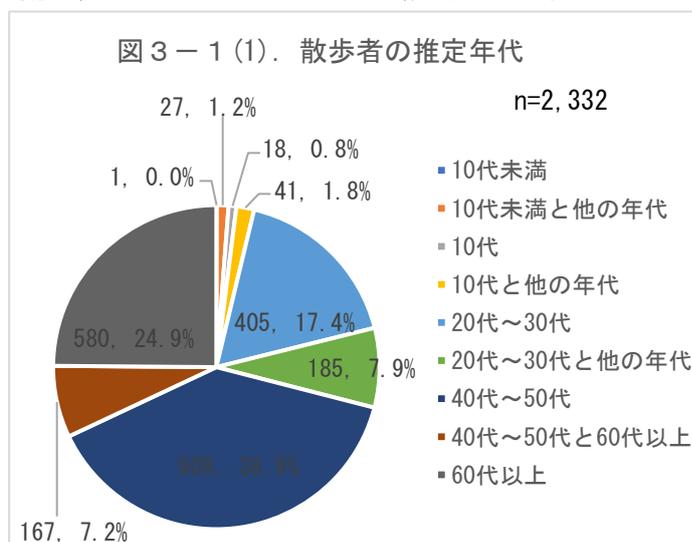
【調査項目 3】 散歩している人の推定年代 ※複数選択可

① 全国調査

犬の散歩をしている人の推定年代については、単独の年代及び複数の年代のグループとに組み合わせて集計した。有効回答 2,332 件のうち、最も多かったのが 40 代～50 代の 908 件 (38.9%)、次が 60 代以上で 580 件 (24.9%)、その次が 20 代～30 代で 405 件 (17.4%) であった (表 3-1 (1)、図 3-1 (1))。推定年代については、10 代未満から 60 代以上と幅広く、異なる年代で構成されたグループもあったことから、夫婦、親子、カップル、孫と祖父母等での交流に役立てられているものと推測された。

表 3-1 (1). 散歩者の推定年代

推定年代	件数	割合
10 代未満	1	0.0%
10 代未満と他の年代	27	1.2%
10 代	18	0.8%
10 代と他の年代	41	1.8%
20 代～30 代	405	17.4%
20 代～30 代と他の年代	185	7.9%
40 代～50 代	908	38.9%
40 代～50 代と 60 代以上	167	7.2%
60 代以上	580	24.9%
計	2,332	100.0%

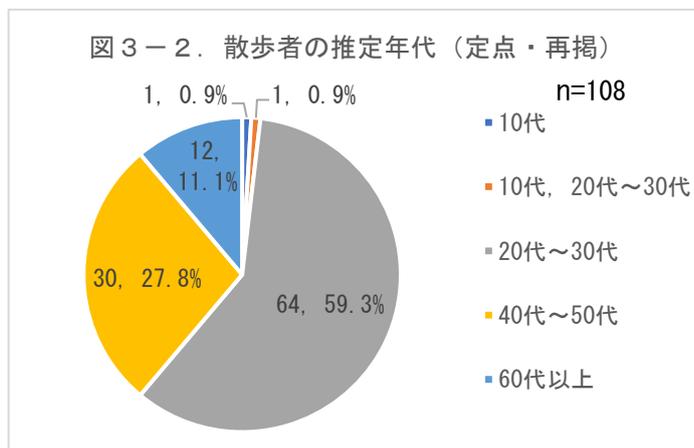


② 定点調査

有効回答 108 件のうち、最も多かったのが 20 代～30 代で 64 件 (59.3%)、次が 40 代～50 代で 30 件 (27.8%)、その次が 60 代以上で 12 件 (11.1%) であった (表 3-1、図 3-1)。全国調査に比較すると散歩者の年代が若い傾向が見られた。

表 3-2. 散歩者の推定年代 (定点・再掲)

推定年代	件数	割合 (%)
10 代	1	0.9%
10 代, 20 代～30 代	1	0.9%
20 代～30 代	64	59.3%
40 代～50 代	30	27.8%
60 代以上	12	11.1%
計	108	100.0%



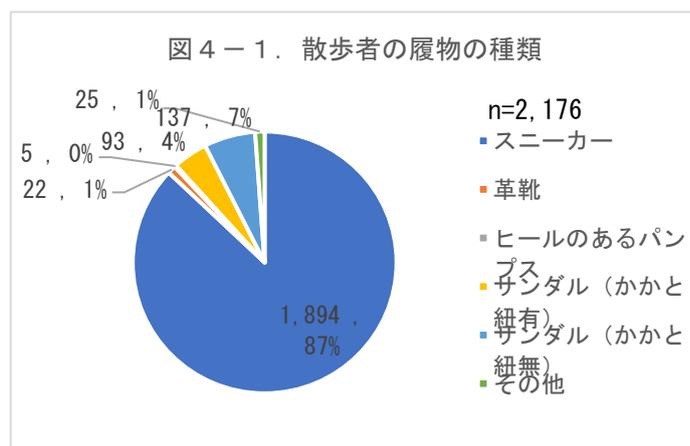
【調査項目 4】 散歩をしている人の履物の種類

① 全国調査

犬の散歩をしている人の履物の種類については、有効回答 2,176 件のうち、最も多いのがスニーカーで 1,894 件 (87.0%)、次がサンダル (かかと紐無) で 137 件 (6.3%)、その次がサンダル (かかと紐有) で 93 件 (4.3%) であった (表 4-1、図 4-1)。多くの散歩者が、歩きやすかつ脱げにくい履物を選んでいる子犬がわかった。

表 4-1. 散歩者の履物の種類

種類	件数	割合
スニーカー	1,894	87.0%
革靴	22	1.0%
ヒールのあるパンプス	5	0.2%
サンダル(かかと紐有)	93	4.3%
サンダル(かかと紐無)	137	6.3%
その他	25	1.1%
計	2,176	100.0%

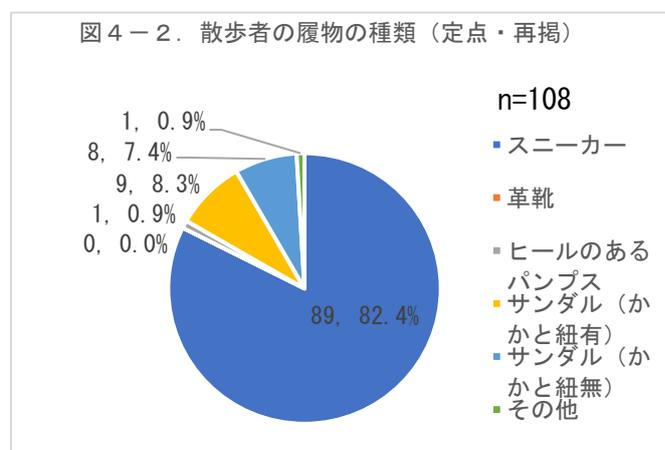


② 定点調査

有効回答 108 件のうち、最も多いのがスニーカーで 89 件 (82.4%)、次がサンダル (かかと紐有) で 9 件 (8.3%)、その次がサンダル (かかと紐無) で 8 件 (7.4%) であった。全国調査とほぼ同様の傾向が見られた (表 4-2、図 4-2)。

表4-2. 散歩者の履物の種類（定点・再掲）

種類	件数	割合
スニーカー	89	82.4%
革靴	0	0.0%
ヒールのあるパンプス	1	0.9%
サンダル（かかと紐有）	9	8.3%
サンダル（かかと紐無）	8	7.4%
その他	1	0.9%
計	108	100.0%



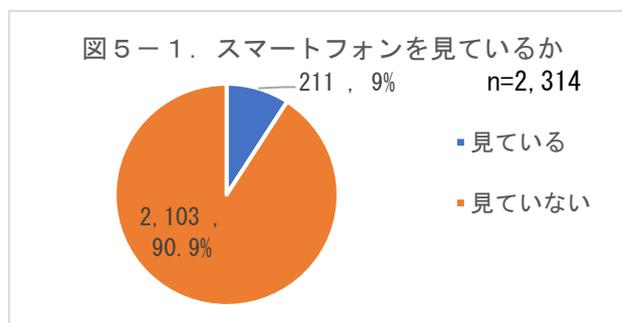
【調査項目5】散歩をしている人がスマートフォンを見ているか

① 全国調査

散歩している人がスマートフォンを見ているかについては、有効回答 2,314 件のうち、「見ている」が 211 件（9.1%）、「見ていない」が 2,103 件（90.9%）であり、ほとんどの散歩者が、犬や周囲の状況に目を配れるように、スマートフォンは見ないようにしていたことがわかった（表5-1、図5-1）。

表5-1. スマートフォンを見ているか

見ている・見ていない	件数	割合
見ている	211	9.1%
見ていない	2,103	90.9%
計	2,314	100.0%

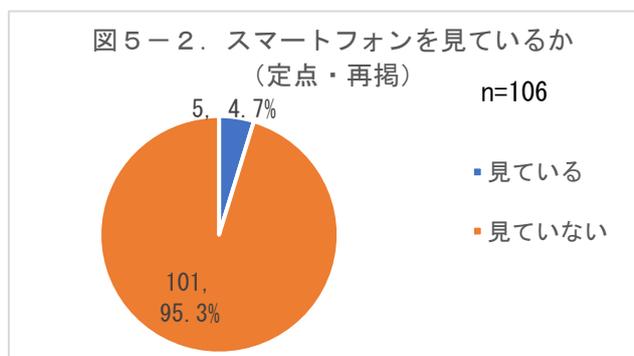


② 定点調査

有効回答 106 件のうち、「見ている」が 5 件（4.7%）、「見ていない」が 101 件（95.3%）であり、全国調査と同様の傾向であった（表5-2、図5-2）。

表5-2. スマートフォンを見ているか（定点・再掲）

見ている・見ていない	件数	割合
見ている	5	4.7%
見ていない	101	95.3%
計	106	100.0%



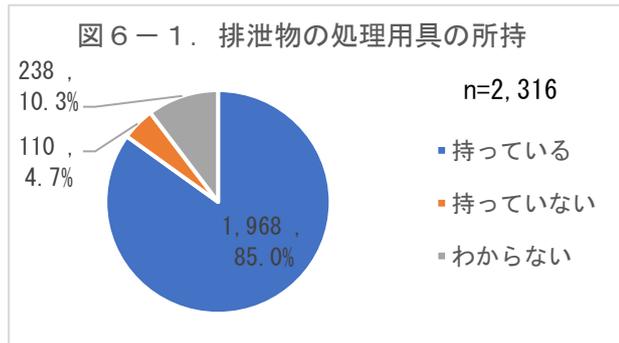
【調査項目6】排泄物の処理用具を持っているか。

① 全国調査

排せつ物の処理用具を持っているかについては、有効回答 2,316 件のうち、持っているが 1,968 件 (85.0%)、持っていないが 110 件 (4.7%)、わからないが 238 件 (10.3%) であった (表 6-1、図 6-1)。所持していない散歩者については、犬の散歩時に排泄させるときなどに、適切に処理できないことが危惧された

表 6-1. 排せつ物の処理用具の所持

用具の所持	件数	割合
持っている	1,968	85.0%
持っていない	110	4.7%
わからない	238	10.3%
計	2,316	100.0%

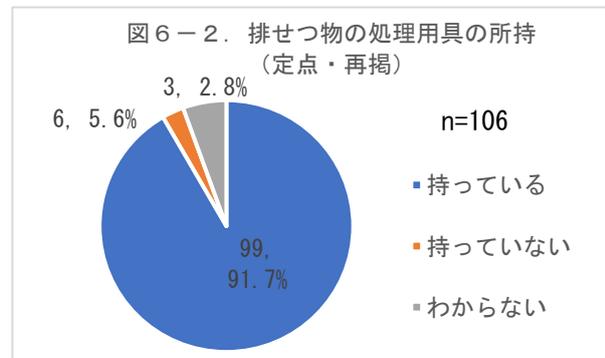


② 定点調査

有効回答 108 件のうち、持っているが 99 件 (91.7%)、持っていないが 3 件 (2.8%)、わからないが 6 件 (5.6%) であった (表 6-2、図 6-2)。排せつ物の処理用具を持っている散歩者の割合が、全国調査よりも高いことがわかった。

表 6-2. 排せつ物の処理用具の所持  
(定点・再掲)

用具の所持	件数	割合
持っている	99	91.7%
持っていない	3	2.8%
わからない	6	5.6%
	108	100.0%



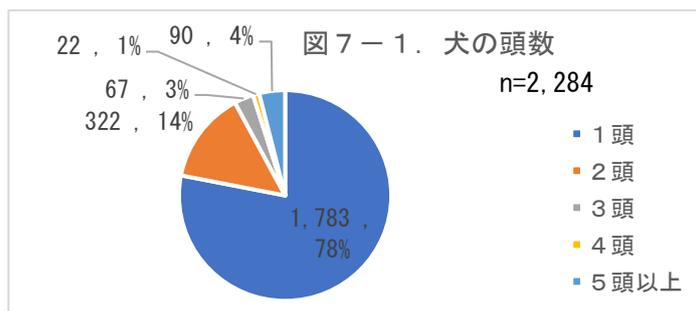
【調査項目7】犬は何頭いるか。

① 全国調査

犬の頭数については、有効回答 2,284 件 293 件のうち、最も多いのが 1 頭で 1,783 件 (78.1%)、次が 2 頭で 322 件 (7.1%)、その次が 5 頭以上で 90 件 (3.9%) であった (表 7-1、図 7-1)。

表7-1. 犬の頭数

頭数	件数	割合
1頭	1,783	78.1%
2頭	322	14.1%
3頭	67	2.9%
4頭	22	1.0%
5頭以上	90	3.9%
計	2,284	100.0%

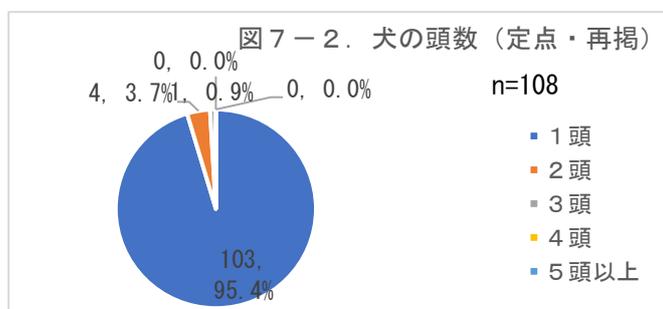


② 定点調査

有効回答 108 件のうち、最も多いのが 1 頭で 103 件 (95.4%)、次が 2 頭で 4 件 (3.7%)、その次が 3 頭で 1 件 (0.9%) であった (表 7-2、図 7-2)。全国調査に比較すると 1 頭の割合が大きく、4 頭以上は観察されなかった。都心の住宅事情等の影響により、飼育できる犬の頭数は少なめになるものと推測された。

表7-2. 犬の頭数(定点・再掲)

頭数	件数	割合
1頭	103	95.4%
2頭	4	3.7%
3頭	1	0.9%
4頭	0	0.0%
5頭以上	0	0.0%
計	108	100.0%



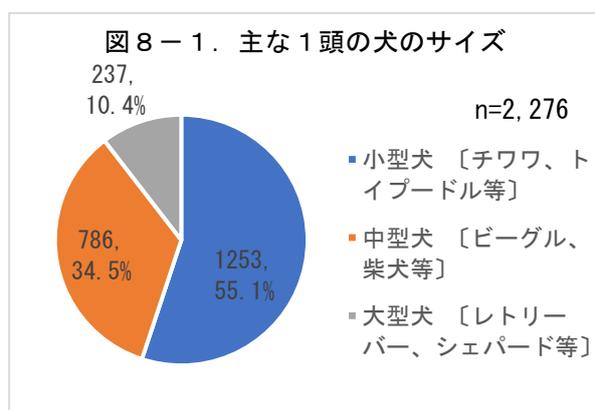
【調査項目 8】 主な 1 頭の犬のサイズはどれくらいか。

① 全国調査

主な 1 頭の犬のサイズについては、有効回答 2,276 件のうち、最も多いのが小型犬で 1,253 件 (55.7%)、次が中型犬で 786 件 (34.5%)、その次が大型犬で 237 件 (10.4%) であった (表 8-1、図 8-1)。

表8-1. 犬のサイズ

犬のサイズ	件数	割合
小型犬〔チワワ、トイプードル等〕	1,253	55.1%
中型犬〔ビーグル、柴犬等〕	786	34.5%
大型犬〔レトリバー、シェパード等〕	237	10.4%
計	2,276	100.0%

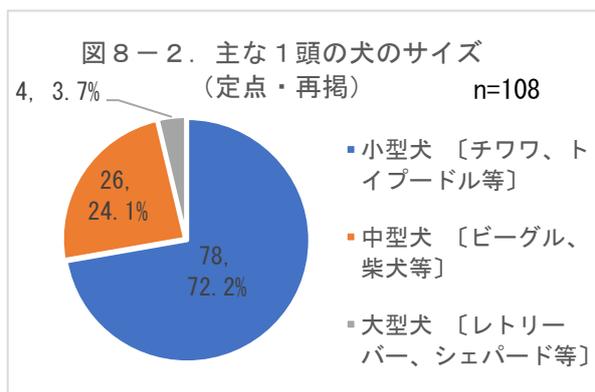


② 定点調査

有効回答 108 件のうち、最も多いのが小型犬で 78 件 (72.2%)、次が中型犬で 26 件 (24.1%)、その次が大型犬で 4 件 (3.7%) であった (表 8-2、図 8-2)。全国調査に比較すると、小型犬の割合が多く、中型犬、大型犬の割合が少なかった。都心の住宅事情等の影響により、飼育できる犬のサイズは小さめになるものと推測された。

表 8-2. 犬のサイズ (定点・再掲)

犬のサイズ	件数	割合
小型犬〔チワワ、トイプードル等〕	78	72.2%
中型犬〔ビーグル、柴犬等〕	26	24.1%
大型犬〔レトリバー、シェパード等〕	4	3.7%
計	108	100.0%



【調査項目 9】 リード装着の有無

① 全国調査

犬へのリードの装着については、有効回答 2,326 件のうち、「有り」が 2,290 件 (98.5%)、「無し」が 36 件 (1.5%) であった (表 9-1、図 9-1)。リード「無し」の 36 件は、小型犬が 20 件 (55.6%)、中型犬が 12 件 (33.3%)、大型犬が 4 件 (11.1%) であった。犬の散歩中のリード「無し」は割合としてはわずかではあったが、法令違反はもとより、他者や他の犬とのトラブルの可能性が高まるだけでなく、犬が逸走して交通事故にあたりたりするなど、犬自体を危険にさらすことにもつながる。また、他者に不安を与えることにもなる<sup>2)</sup>。自分の犬は事故を起こしたり逸走したりしないなどと過信することなく、犬の散歩中は必ずリードを着けるように普及啓発を継続することが必要とわかった。

表 9-1. リード装着の有無

リードの有無	件数	割合
有り	2,290	98.5%
無し	36	1.5%
計	2,326	100.0%

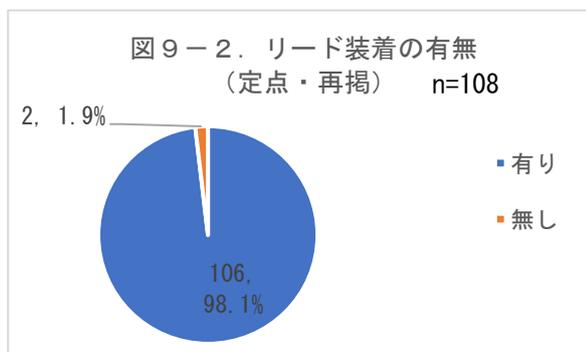


② 定点調査

有効回答 108 件のうち、有りが 106 件 (98.1%)、無しが 2 件 (1.9%) であった (表 9-2、図 9-2)。リードの有無については全国調査とほぼ同様の結果であった。リード無しの 2 件は、いずれも小型犬であった。

表 9-2. リード装着の有無  
(定点・再掲)

リードの有無	件数	割合
有り	106	98.1%
無し	2	1.9%
計	108	100.0%



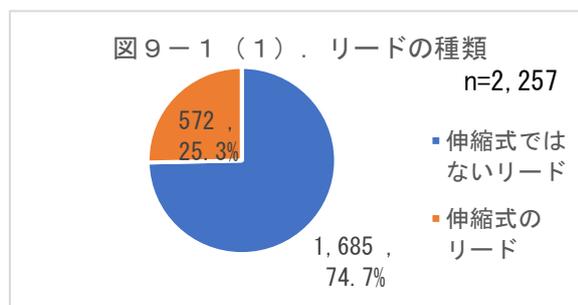
【調査項目 9-1】 リード装着有りの場合、リードの種類は次のどれか。

① 全国調査

リードの種類については、有効回答 2,257 件のうち伸縮式ではないリードが 1,685 件 (74.7%)、伸縮式のリードが 572 件 (25.3%) であった (表 9-1 (1)、図 9-1 (1))。伸縮式のリードの場合、犬が飼い主よりも先行して前を歩こうとしたときに、飼い主がリードを伸ばした場合、犬を制御するのが難しくなり、他者や他の犬とのトラブルになる可能性が高まることが懸念された。

表 9-1 (1). リードの種類

リードの種類	件数	割合
伸縮式ではないリード	1,685	74.7%
伸縮式のリード	572	25.3%
計	2,257	100.0%



② 定点調査

有効回答 108 件のうち伸縮式ではないリードが 102 件 (94.4%)、伸縮式のリードが 6 件 (5.6%) であった (表 9-1 (2)、図 9-1 (2))。全国調査では伸縮式のリードが 25.3%であったのに対し、定点調査では 5.6%であり、伸縮式リードの割合が少なかった。

表9-1(2). リードの種類(定点・再掲)

リードの種類	件数	割合
伸縮式ではないリード	102	94.4%
伸縮式のリード	6	5.6%
計	108	100.0%



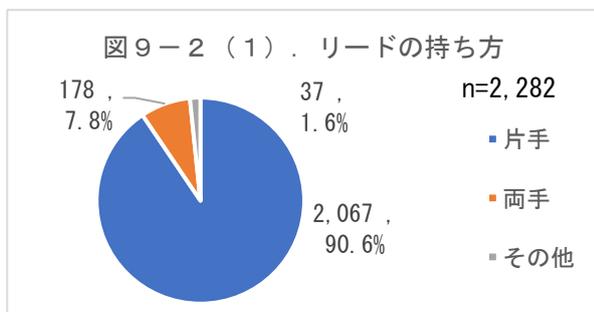
【調査項目9-2】リード装着有りの場合、リードの持ち方は次のどれか。

① 全国調査

リードの持ち方については、有効回答 2,282 件のうち片手が 2,067 件 (90.6%)、両手が 178 件 (7.8%)、その他が 37 件 (1.6%) であった。

表9-2(1). リードの持ち方

持ち方	件数	割合
片手	2,067	90.6%
両手	178	7.8%
その他	37	1.6%
計	2,282	100.0%

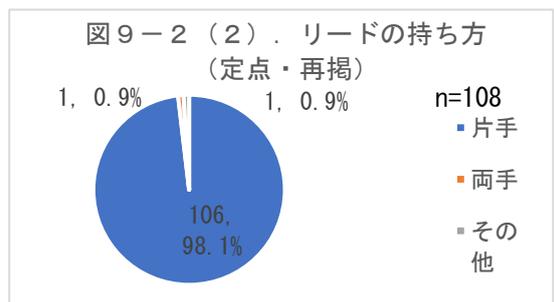


② 定点調査

有効回答 108 件のうち、片手が 106 件 (98.1%)、両手が 1 件 (0.9%)、その他が 1 件 (0.9%) であった。全国調査とほぼ同様の傾向であった。

表9-2(2). リードの持ち方(定点・再掲)

持ち方	件数	割合
片手	106	98.1%
両手	1	0.9%
その他	1	0.9%
計	108	100.0%



【調査項目9-3】リード装着有りの場合、散歩をしている人と犬の距離はどれくらいか。

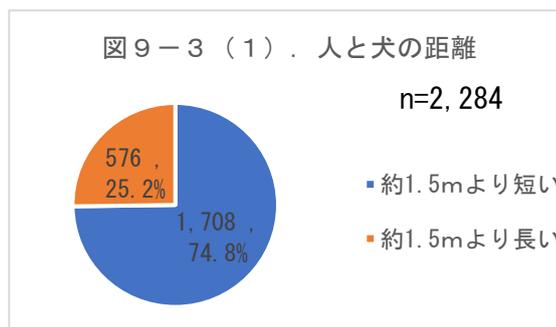
① 全国調査

散歩をしている人と犬の距離については、有効回答 2,284 件のうち「約 1.5m より短い」が 1,708 件 (74.8%)、「約 1.5m より長い」が 576 件 (25.2%) であった (表9-

3(1)、図9-3(1))。

表9-3(1). 人と犬の距離

距離	件数	割合
約1.5mより短い	1,708	74.8%
約1.5mより長い	576	25.2%
計	2,284	100.0%

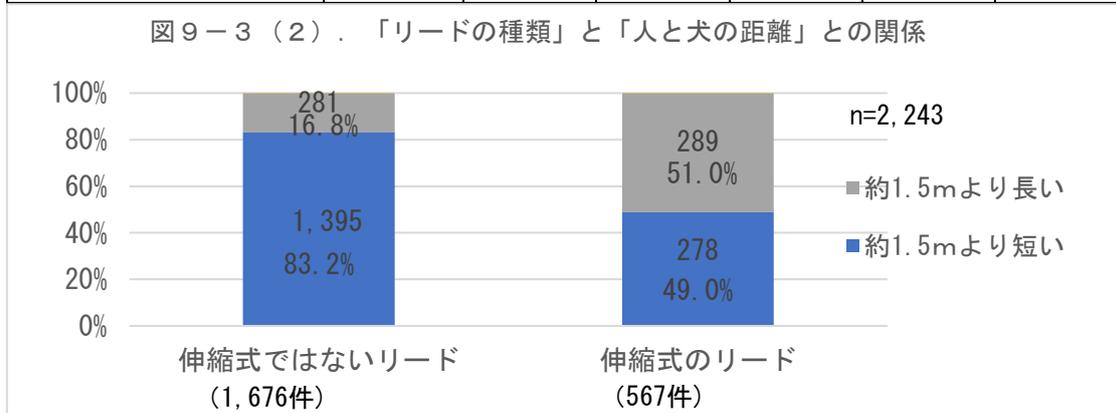


○ 「リードの種類」と「人と犬の距離」との関係

調査項目9-1の「リードの種類」と調査項目9-3の「人と犬の距離」の調査結果をクロス集計し、その関係について見ると、有効回答2,243件のうち、「伸縮式ではないリード」1,676件に対し、人と犬の距離が「約1.5mより短い」は1,395件(83.2%)、「約1.5mより長い」は281件(16.8%)であり、「短い」が「長い」の約5倍であった。一方、「伸縮式のリード」567件に対し、人と犬の距離が「約1.5mより短い」は278件(49.0%)、「約1.5mより長い」が289件(51.0%)であり、「短い」と「長い」の割合はほぼ同じであった。伸縮式のリードを使用している散歩者の方が、伸縮式ではないリードを使用している散歩者よりも人と犬の距離が約1.5mよりも長い割合が多かった(表9-3(2)、図9-3(2))。

表9-3(2). 「リードの種類」と「人と犬の距離」との関係(件数・割合)

リードの種類	件数			割合		
	約1.5mより短い	約1.5mより長い	計	約1.5mより短い	約1.5mより長い	計
伸縮式ではないリード	1,395	281	1,676	83.2%	16.8%	100.0%
伸縮式のリード	278	289	567	49.0%	51.0%	100.0%
計	1,673	570	2,243	74.6%	25.4%	100.0%

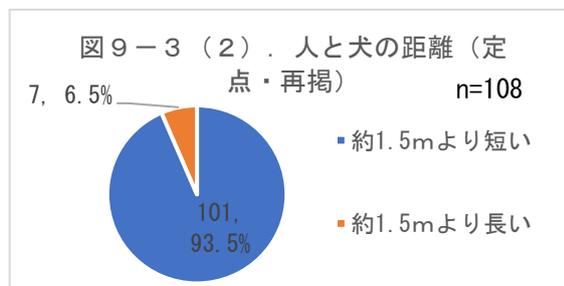


② 定点調査

有効回答 108 件のうち「約 1.5m より短い」が 101 件 (93.5%)、「約 1.5m より長い」が 7 件 (6.5%) であった (表 9-3 (3)、図 9-3 (3))。全国調査 (74.8%) に比較すると約 1.5m より短い割合が多かった。

表 9-3 (3). 人と犬の距離 (定点・再掲)

距離	件数	割合
約 1.5m より短い	101	93.5%
約 1.5m より長い	7	6.5%
計	108	100.0%



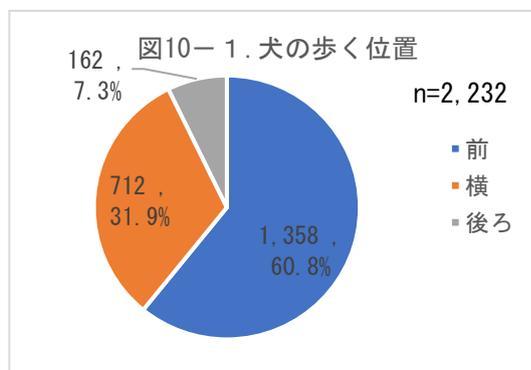
【調査項目 10】 犬の歩く位置は、散歩をしている人のどこか。

① 全国調査

散歩をしている人と犬の位置関係については、有効回答 2,232 件のうち、最も多かったのが「散歩者の前」で 1,358 件 (60.8%)、次が「散歩者の横」で 712 件 (31.9%)、その次が「散歩者の後ろ」で 162 件 (7.3%) であった (表 10-1、図 10-1)。

表 10-1. 犬の歩く位置

犬の歩く位置	件数	割合
散歩者の前	1,358	60.8%
散歩者の横	712	31.9%
散歩者の後ろ	162	7.3%
計	2,232	100.0%



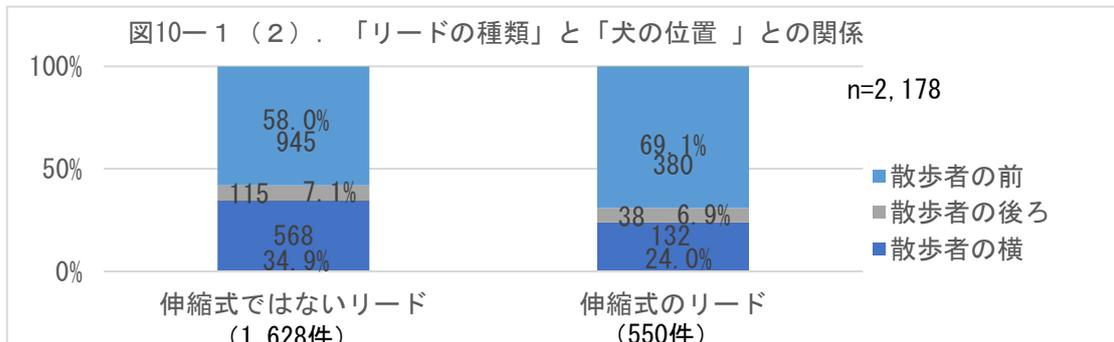
○ 「リードの種類」と「犬の位置」との関係

調査項目 9-1 の「リードの種類」と調査項目 10-1 「犬の歩く位置」をクロス集計し、その関係性を分析した。有効回答 2,178 件のうち、「伸縮式ではないリード」の 1,628 件について見ると、犬の歩く位置が「散歩者の前」が 945 件 (58.0%)、「散歩者の横」が 568 件 (34.9%)、「散歩者の後ろ」が 115 件 (7.1%) であった。「伸縮式のリード」の 550 件について見ると、「散歩者の前」が 380 件 (69.1%)、「散歩者の横」が 132 件 (24.0%)、「散歩者の後ろ」が 38 件 (6.9%) であった。「伸縮式ではないリード」よりも「伸縮式のリード」を使用している散歩者のほうが、犬の位置が

「散歩者の前」の割合がやや多いという状況であった（表 10—1 (2)、図 10—1 (2)）。

表 10—1 (2). 「リードの種類」と「犬の位置」との関係

リードの種類	件数				割合			
	前	横	後ろ	計	前	横	後ろ	計
伸縮式ではないリード	945	568	115	1,628	58.0%	34.9%	7.1%	100.0%
伸縮式のリード	380	132	38	550	69.1%	24.0%	6.9%	100.0%
計	1,325	700	153	2,178	60.8%	32.1%	7.0%	100.0%



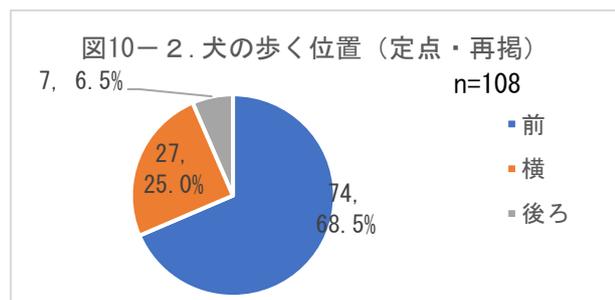
前述の「リードの種類」と「人と犬の距離」との関係のデータと合わせて考えると、「伸縮式ではないリード」に比べて「伸縮式のリード」のほうが、人と犬との距離が 1.5m 以上離れて、かつ犬が人の前を歩いている割合が高いことがわかった。「伸縮式のリード」の場合、犬が飼い主よりも先行して前に出ようとするのを抑制せず、犬に引っ張られるまま、リードを伸ばしていることが推測された。リードを長すぎる状態にしておく、ほかの人や犬と遭遇した際のトラブル、交通事故の発生する可能性が高くなることが危惧される<sup>1) 2)</sup>。今回の調査では、犬の散歩で使用するリードの種類や人と犬の距離等について、引き続き普及啓発していく必要があると考えられた。

## ② 定点調査

有効回答 108 件のうち、最も多かったのが「散歩者の前」で 74 件 (68.5%)、次が「散歩者の横」で 27 件 (25.0%)、その次が「散歩者の後ろ」で 7 件 (6.5%) であった (表 10—2、図 10—2)。全国調査の結果とほぼ同様であった。

表 10—2. 犬の歩く位置 (定点・再掲)

犬の歩く位置	件数	割合
散歩者の前	74	68.5%
散歩者の横	27	25.0%
散歩者の後ろ	7	6.5%
計	108	100.0%



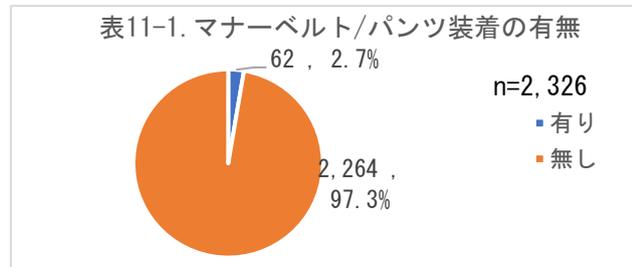
【調査項目 11】 マナーベルト／パンツ装着の有無

① 全国調査

マナーベルト／パンツ装着の有無については、有効回答 2,326 件のうち、「有り」が 62 件 (2.7%)、「無し」が 2,264 件 (97.3%) であった (表 11-1、図 11-1)。

表 11-1. マナーベルト／パンツ装着の有無

有無	件数	割合
有り	62	2.7%
無し	2,264	97.3%
計	2,326	100.0%

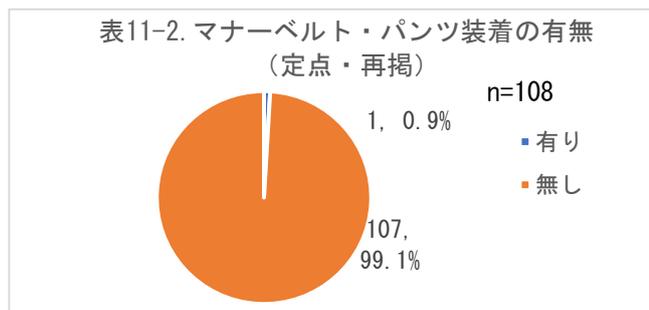


② 定点調査

有効回答 108 件のうち、「有り」が 1 件 (0.9%)、「無し」が 107 件 (99.1%) であり (表 11-2、図 11-2)、全国調査とほぼ同様の傾向であった。

表 11-2. マナーベルト・パンツ装着の有無  
(定点・再掲)

有無	件数	割合
有り	1	0.9%
無し	107	99.1%
計	108	100.0%



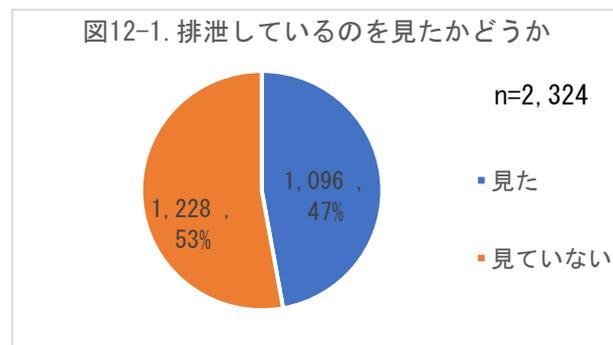
【調査項目 12】 排泄しているのを見たかどうか。

① 全国調査

排泄しているのを見たかどうかについては、有効回答 2,324 件のうち、「見た」が 1,096 件 (47.2%)、「見ていない」が 1,228 件 (52.8%) であった (表 12-1、図 12-1)。

表 12-1. 排泄しているのを見たかどうか

見たかどうか	件数	割合
見た	1,096	47.2%
見ていない	1,228	52.8%
計	2,324	100.0%

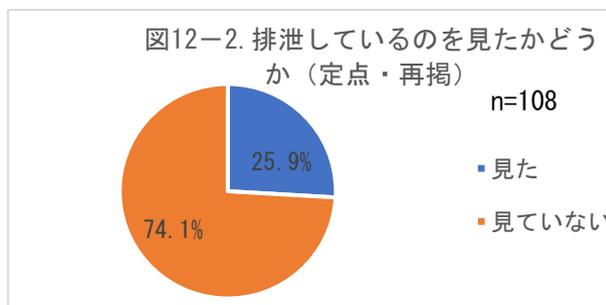


② 定点調査

有効回答 108 件のうち、「見た」が 28 件 (25.9%)、「見ていない」が 80 件 (74.1%) であった (表 12-2、図 12-2)。全国調査に比較して、「見た」の割合が少なかった。

表 12-2. 排泄しているのを見たかどうか (定点・再掲)

見たかどうか	件数	割合
見た	28	25.9%
見ていない	80	74.1%
計	108	100.0%



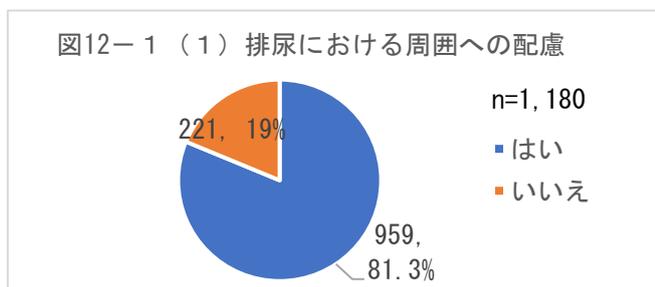
【調査項目 12-1】 犬が排尿しているのを見た場合、周りの人に配慮した場所 (路上の端や草むら等) でさせていたか。

① 全国調査

犬が排尿しているのを見た場合、周りの人に配慮した場所 (路上の端や草むら等) でさせていたかについては、有効回答 1,180 件のうち、「はい」が 959 件 (81.3%)、「いいえ」が 221 件 (18.7%) であった (表 12-1 (1)、図 12-1 (1))。

表 12-1 (1). 排尿における周囲への配慮

周囲への配慮	件数	割合
はい	959	81.3%
いいえ	221	18.7%
計	1,180	100.0%

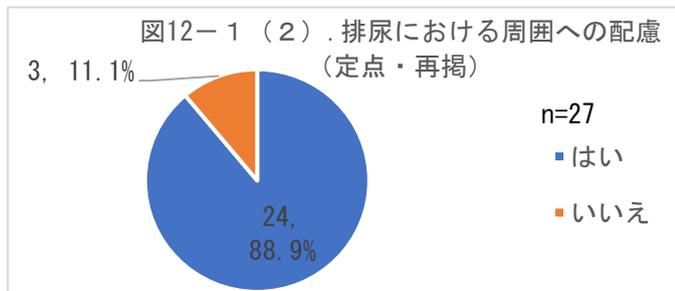


② 定点調査

有効回答 27 件のうち、「はい」が 24 件 (88.9%)、「いいえ」が 3 件 (11.1%) であった (表 12-1 (2)、図 12-1 (2))。全国調査に比較すると「はい」の割合が多く、犬の排尿に際して周囲への配慮が多いことがわかった。

表 12-1 (2). 排尿における周囲への配慮 (定点・再掲)

周囲への配慮	件数	割合
はい	24	88.9%
いいえ	3	11.1%
計	27	100.0%



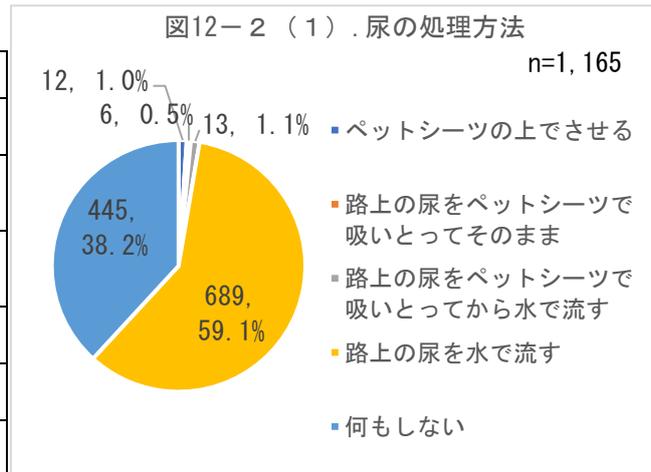
【調査項目 12-2】 犬が排尿しているのを見た場合 尿の処理方法は次のどれか

① 全国調査

犬が排尿しているのを見た場合の尿の処理方法については、有効回答 1,165 件のうち、最も多かったのが「路上の尿を水で流す」で 689 件 (59.1%)、次が「何もしない」で 445 件 (38.2%) であった。ペットシートを用いて何らかの方法で処理された件数は 6～13 件 (0.5%～1.1%) で、合計しても 31 件 (3%以下) であった。

表 12-2 (1). 尿の処理方法

処理方法	件数	割合
ペットシートの上でさせる	12	1.0%
路上の尿をペットシートで吸いにとってそのまま	6	0.5%
路上の尿をペットシートで吸いにとってから水で流す	13	1.1%
路上の尿を水で流す	689	59.1%
何もしない	445	38.2%
計	1165	100.0%

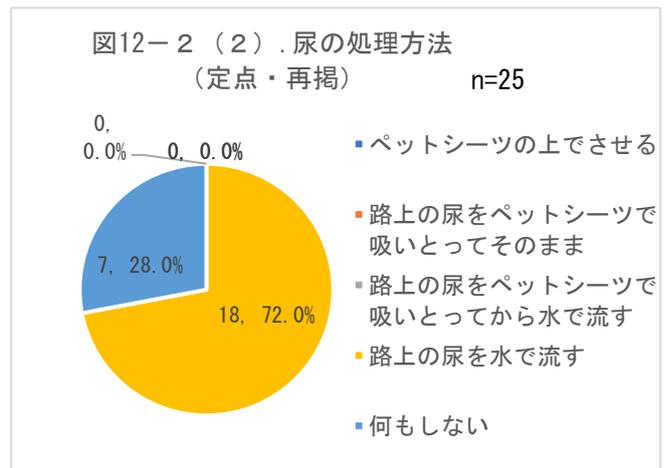


② 定点調査

有効回答 25 件のうち、「路上の尿を水で流す」が 18 件 (72.0%)、「何もしない」が 7 件 (28.0%)、その他の処理方法は 0 件であった (表 12-2 (2)、図 12-2 (3))。全国調査に比較すると「何もしない」の割合が少ない状況であった。

表 12-2 (2). 尿の処理方法 (定点・再掲)

処理方法	件数	割合
ペットシートの上でさせる	0	0.0%
路上の尿をペットシートで吸いにとってそのまま	0	0.0%
路上の尿をペットシートで吸いにとってから水で流す	0	0.0%
路上の尿を水で流す	18	72.0%
何もしない	7	28.0%
計	25	100.0%



【調査項目 12-3】 犬が排便しているのを見た場合、周りの人に配慮した場所（路上の端や草むら等）でさせていたか。

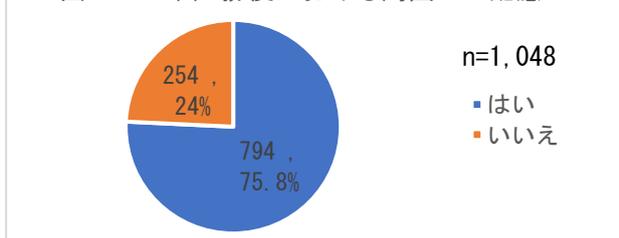
① 全国調査

犬が排便しているのを見た場合、周りの人に配慮した場所（路上の端や草むら等）でさせていたかについては、有効回答 1,048 件のうち、「はい」が 794 件（75.8%）、「いいえ」が 254 件（24.2%）であった（表 12-3（1）、図 12-3（1））。【調査項目 12-1】 排尿における周囲への配慮において、「はい」が 81%だったのに対し、やや低い割合となった。

表 12-3（1）. 排便における周囲への配慮

周囲への配慮	件数	割合
はい	794	75.8%
いいえ	254	24.2%
計	1048	100.0%

図 12-3（1）. 排便における周囲への配慮



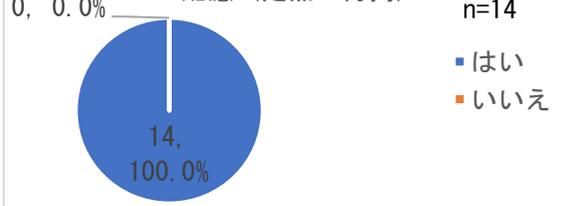
② 定点調査

有効回答 14 件のうち、「はい」が 14 件（100.0%）であった（表 12-3（2）、図 12-3（2））。調査件数が少ないものの、全国調査に比較するとすべてが「はい」であり、犬の排便に際して周囲への配慮が多い状況がわかった。

表 12-3（2）. 排便における周囲への配慮（定点・再掲）

周囲への配慮	件数	割合
はい	14	100.0%
いいえ	0	0.0%
計	14	100.0%

図 12-3（2）. 排便における周囲への配慮（定点・再掲）



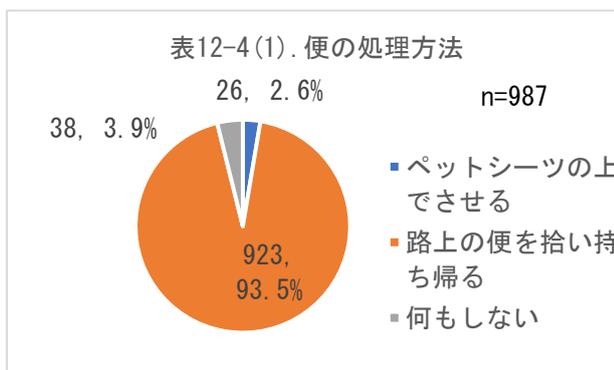
【調査項目 12-4】 犬が排便しているのを見た場合、便の処理方法は次のどれか。

① 全国調査

犬が排便しているのを見た場合の便の処理方法については、有効回答 987 件のうち、最も多かったのが「路上の便を拾い持ち帰る」で 923 件（93.5%）、次が「何もしない」で 38 件（3.9%）、その次が「ペットシートの上でさせる」が 26 件（2.3%）であった（表 12-4(1)、図 12-1(1)）。「路上の便を拾い持ち帰る」「ペットシートの上でさせる」を合わせると 96.1%であり、ほとんどの散歩者が便を適切に処理していることがわかった。

表 12-4(1). 便の処理方法

処理方法	件数	割合
ペットシートの上でさせる	26	2.6%
路上の便を拾い持ち帰る	923	93.5%
何もしない	38	3.9%
計	987	100.0%

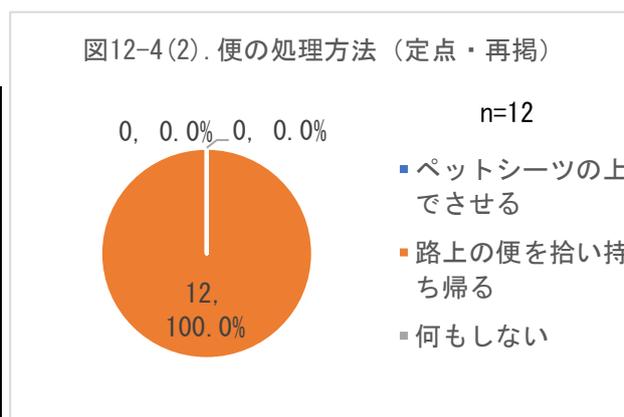


② 定点調査

有効回答 12 件のうち、「路上の便を拾い持ち帰る」が 12 件（100.0%）であった（表 12-4（4）、図 12-4(3)）。調査件数が少ないものの、全国調査に比較するとすべての散歩者が路上の便を持ち帰っており、犬の排便に際して適切に処理していることがわかった。

表 12-4(2). 便の処理方法（定点・再掲）

処理方法	件数	割合
ペットシートの上でさせる	0	0.0%
路上の便を拾い持ち帰る	12	100.0%
何もしない	0	0.0%
計	12	100.0%



## &lt;調査対象外&gt;

- ・カートやバギーなどで散歩している犬
- ・調査ボランティアご自身の犬

## 犬のお散歩マナー調査票

※この調査は、調査ボランティアによる観察調査です

1. 観察調査をした時間（おおむねの時間を一つ選択してください。）  
（ 6時以前 / 6時～8時 / 8時～10時 / 10時～12時 / 12時～14時 / 14時～16時 / 16時～18時 / 18時～20時 / 20時以降 ）
2. 散歩をしている人の性別 ※複数記入可  
（ 男 人・女 人・不明 人 ）
3. 散歩をしている人の推定年代 ※複数選択可  
（ 10代未満・10代・20代～30代・40代～50代・60代以上 ）
4. 散歩をしている人の履き物の種類  
（ スニーカー・革靴・ヒールのあるパンプス・サンダル(かかと紐有り)・サンダル(かかと紐無し)・その他 ）
5. 散歩をしている人がスマートフォンを見ているか  
（ 見ている・見ていない ）
6. 排泄物の処理用具を持っているか  
（ 持っている・持っていない・わからない ）
7. 犬は何頭いるか  
（ 1頭・2頭・3頭・4頭・5頭以上 ）

複数頭数の場合、以降の質問については、主な犬1頭を選んで調査してください。

8. 主な1頭の犬のサイズはどれくらいか  
（ 大型犬[レトリバー、シェパード等]・中型犬[ビーグル、柴犬等]・小型犬[チワワ、トイプードル等] ）
9. リード装着の有無  
（ 有り・無し ）
  - 9-1. リード装着有りの場合、リードの種類は次のどれか  
（ 伸縮式ではないリード・伸縮式のリード ）
  - 9-2. リード装着有りの場合、リードの持ち方は次のどれか  
（ 片手・両手・その他 ）
  - 9-3. リード装着有りの場合、散歩をしている人と犬の距離はおおむねどれくらいか  
（ 約1.5mより長い・約1.5mより短い ）
10. 犬の歩く位置は、散歩をしている人のどこか  
（ 横・前・後ろ ）
11. マナーベルト/パンツ装着の有無  
（ 有り・無し ）
12. 排泄しているのを見たかどうか  
（ 見た・見ていない ）
  - 12-1. 犬が排尿しているのを見た場合 周りの人に配慮した場所(路上の端や草むら等)でさせていたか  
（ はい・いいえ ）
  - 12-2. 犬が排尿しているのを見た場合 尿の処理方法は次のどれか  
（ ペットシートの上でさせる・路上の尿をペットシートで吸い取ってそのまま・路上の尿をペットシートで吸い取ってから水で流す・路上の尿を水で流す・何もしない ）
  - 12-3. 犬が排便しているのを見た場合 周りの人に配慮した場所(路上の端や草むら等)でさせていたか  
（ はい・いいえ ）
  - 12-4. 犬が排便しているのを見た場合 便の処理方法は次のどれか  
（ ペットシートの上でさせる・路上の便を拾い持ち帰る・何もしない ）

調査用紙は適宜コピーしてご利用ください。